

特254

965

昭和十八年八月

「戰時海運對策ニ關スル意見」參考資料

納本

日本經濟聯盟會



始



特 254  
965

目次

一 戰時海上輸送力増強ニ關スル事項……………一

第一、高性能船舶ノ建造……………一

第二、港灣荷役力増強ト港運會社運営ノ根本方針……………二

第三、船舶ニ對スル炭水等補給ノ適正迅速化……………二

第四、輸送経路ノ合理化ト輸送貨物ノ品質嚴選ニ依ル輸送量ノ壓縮……………三

第五、海運運營機構ノ整備……………四

第六、船舶所有者對策……………五

第七、船舶管理ノ統一……………五

第八、海上運送契約様式ノ單一化……………六

第九、船舶海難防止對策……………六

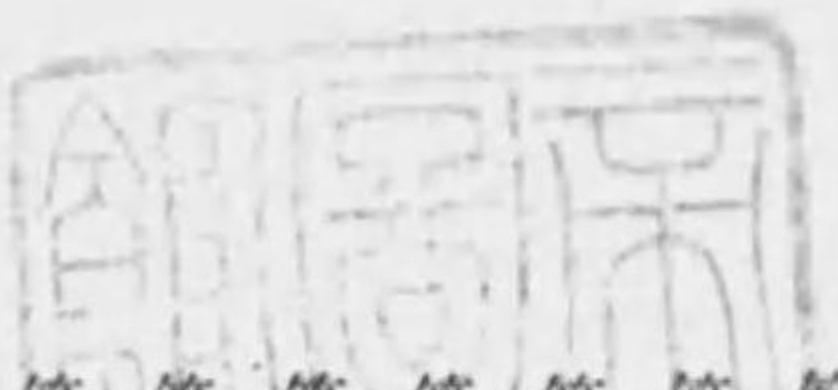
第十、内外地海事行政ノ統一……………七

二 戰時港灣機能増強ニ關スル事項……………七

第一、港灣運營及ビ其ノ管理行政ノ統一……………七

第二、勞務對策……………八

第三、港灣施設對策……………九



第四、港灣運管能率増進對策……………九

三 戰時船員對策ニ關スル事項……………二

第一、指導精神ノ確立……………二

第二、船員待遇問題……………二

第三、船員確保問題……………二

第四、福利厚生問題……………四

四 船舶生産増強ニ關スル事項……………五

第一、船腹擴充根本對策……………一五

第二、船舶ノ新造修繕能力對策……………一六

第三、勞務對策……………一六

第四、資材對策……………一七

第五、船舶修繕對策……………一九

一、戰時海上輸送力増強ニ關スル事項

大東亞戰爭ノ完遂ハ懸ツテ海上輸送力ニ在リ。其ノ確保増強ニ付キ我方朝野ヲ舉ゲテ全力ヲ傾注シ來レ  
ルガ、現状ヲ直視スルニ改善ヲ要スベキ點尙尠カラザルモノアルヲ痛感ス。茲ニ實務的觀點ヨリ検討シ左  
記各項ニ付キ適切ナル措置ノ急速實施ヲ要望セントスルモノナリ。

第一 高性能船舶ノ建造

海上輸送力増強ノ根本策タル船腹ノ擴充ニ關シ、戰時標準型鋼船及ビ小型木造船ノ大量急速ナル建造  
ニ付キ朝野ヲ舉ゲテ其ノ總力ヲ傾注シ居リ、成果見ルベキモノアルハ意ヲ強フスル所ナルガ、戰時下各  
種ノ特殊任務ニ對スル適應性及ビ綜合的輸送力ノ見地ヨリ、高性能貨物船ノ建造及ビ油槽船ノ増量ヲモ  
併セテ考慮スル必要アリト考ヘラルル故其ノ可能性ニ付キ検討ヲ加ヘラレンコトヲ要望ス。(船舶生産  
増強ニ關スル事項 參照)

第二 港灣荷役力増強ト港運會社運管ノ根本方針

船腹量ノ急速擴充ト相並ンデ現有船舶ノ能率昂揚ハ海上輸送力増強ノ基本要素ナルガ、船舶回轉率ニ  
至大ノ關係アル港灣作業ハ今ヤ各地港運會社ヲ中核體トシテ運管セラレツアル所港灣作業ハ其ノ本質  
上飽ク迄海運ノ要請ニ從ヒ行動スル補佐的使命ヲ主トスベキモノニシテ、偶々港運會社ハ海運事業ト獨

立ニ別個ノ統制組織トシテ各地ニ設立セラレタリト雖モ、海運ト對立關係ニ立ツガ如キハ嚴ニ之ヲ避クベキ所ナリ。即チ船舶速發ヲ唯一ノ目的トナシ計畫荷役ノ遂行ヲ中心トシテ指導經營セラルベキモノニシテ之ガ爲メ必要ナル勞務及ビ資材ヲ確保整備セザルベカラズ。然ルニ港運會社方現在ノ如キ經營形態ニ在ル以上勢ヒ採算ニ制約セラレ其ノ使命完遂ヲ困難ナラシムル虞アルガ故ニ、船舶速發ヲ第一義ニ經營セシムル爲ニハ政府ニ於テ補償ノ方法ヲ明確ニ定メ置クコト必要ナリト考ヘラル。(「戰時港灣機能増強ニ關スル事項」參照)

### 第三 船舶ニ對スル炭水等補給ノ適正迅速化

燃料炭油ノ品質ハ直チニ船舶航海成績ニ關係スルコト謂フヲ俟タザル所ナルガ、更ニ炭油ノ品質ニシテ良好ナル場合、一定距離ノ航海ニ於テ、燃料持高ヲ減少スルコトヲ得、其丈貨物積載量ヲ増加スル結果トナルモノニ付キ船舶ニ供給スル炭油ノ品質ハ特ニ嚴選スルコト必要ナリ。

特ニ機帆船ノ活動ハ燃料油、潤滑油ノ品質數量ニ影響セラルルコト大ナルモノアルニ付キ其ノ供給確保ニ付キ方策確立ヲ要ス。

尙港灣ニ於ケル船舶速發ニ關シ燃料、飲料水、食料、船用品等ノ補給モ重大關係ヲ有スルニ付キ積場荷役能力ノ増強ト相並ンデ、其ノ迅速化ヲ圖ルコト肝要ナリ。

### 第四 輸送經路ノ合理化ト輸送貨物ノ品質嚴選ニ依ル輸送量ノ壓縮

交錯輸送、長距離輸送等ノ非能率的輸送ハ各方面ノ協力ニ依リ漸次改善ヲ見ツツアレ共今尙關係各方面ノ工夫ト努力ヲ要スル點多々アリ。

特ニ輸送力ノ需要者タル荷主ノ側ニ於テ工場設備、從來ノ工程慣行等ニ一段ノ工夫ト研究ヲ凝シ以テ輸送第一ノ觀點ヨリ出來得ル限り輸送力ノ節約ニ協力スルコト必要ナリ。今日ノ如キ輸送力逼迫ノ段階ニ於テハ更ニ徹底セル輸送經路ノ再檢討必要ニシテ(イ)海上最短距離輸送ト(ロ)輸送貨物品質選擇ノ二大原則ヲ確立シテ之ヲ強權的ニ實施スルコト急務ナリト思考ス。海上最短距離輸送實施ノ爲ニハ鐵道ノ全面的協力ヲ必要トシ其ノ他之ニ關聯セル水陸施設ノ完備ヲ要ス。輸送物資ノ高品位選擇ハ製品ノ歩留リ關係ヨリ見テ結局輸送力ノ節約トナルモノ故商工省、統制會等ニ於テ輸送原材料ノ品質ニ關シ精密ナル調査ト嚴重ナル監督ヲ實施スル要アリ。

### 第五 海運運營機構ノ整備

戰時海運管理令ニ依リ戰時下本邦船舶ノ運航ハ船舶運營會ニ於テ一元的ニ之ヲ擔當シ居レルガ、同會ノ機能ハ其ノ内部機關タル運航實務者ノ能率ト關聯スルコトコト勘カラズ。從來運航實務者ニ依ル業務遂行ノ方式ニハ若干ノ缺陷アリ、同會ハ運航實務者班制度ノ實施ニ依リ其ノ綜合能力ノ結集ト施設ノ共同利用ヲ實現シテ此等弱點ノ除去ヲ企圖セルモ、今後更ニ強力ナル運營態勢確立ノ爲ニハ同會ノ機構ヲ整備強化スルト共ニ政府權限ヲ可及的ニ同會ニ移讓シ其ノ判斷ト處理ニ任セテ、事務ノ簡捷化、敏活化ヲ圖ルト共ニ一方、運航實務者ノ創意ト工夫ヲ一段ト活用セシメ其ノ積極的協力促進ヲ期スベキナリ。

## 第六 船舶所有者對策

現在本邦ノ船舶所有者ノ數ハ大小八百ヲ超エ、而モ船舶總噸數ノ七割ハ二十餘社ノ大船主ニ保有セラレ他ハ小規模ナル多數ノ船主ニ分散ス。現下ノ難關克服ト飛躍的發展トヲ要請セラルル日本海運トシテハ茲ニ新ナル構想ヲ廻ラシ堅實ナル企業體制ヲ確立スベク其ノ整備ヲ圖ルハ蓋シ必然ノ趨勢ナリト雖モ、徒ラニ理論ニ走り實體ニ即セザル急激ナル所有形態ノ變革ヲ試ムルガ如キハ採ラザル所ニシテ、船舶所有者ノ資力、現有船腹、人的物的機構及ビ能率ヲ基準トシテ適格性ヲ再檢討スルコト必要ナリ。尙海運國家管理ニ依リ船舶所有者ノ收入ハ船舶使用料ニ限定セラレ、從ツテ其ノ料率ハ直チニ海運企業ノ消長ニ影響スルコト極メテ大ナリ。今年一月一日ヨリ實施セラレタル公定備船料ハ原價計算ニ依リ算出セラレタル結果船齡ニ依ル遞減比較的大ニシテ、現在ノ使用價值維持ノ爲メ、船主ノ負擔スベキ修繕費其ノ他ノ經費ハ増嵩ノ一途ヲ辿リ居ルニ鑑ミ、此ノ種費用急増ヲ填補スル目的ヲ以テ使用料率ニ彈性ヲ保持セシムル一方、船腹逼迫時、船舶使用價值ノ面ヨリ見テ船主ニ對シ現行航海獎勵金制度ノ外更ニ適當ナル報償制度ヲ考慮スルコト企業維持強化ノ見地ヨリ絕對ニ必要ナリ。

## 第七 船舶管理ノ統一

總噸數百噸以上ノ汽船及ビ百五十噸以上ノ機帆船ハ戰時海運管理令ノ定ムル所ニ依リ、政府之ヲ使用シ船舶運管會ニ貸下ゲ運航ニ當ラシムト雖モ、軍之ヲ徵用スルトキハ船舶運管會ハ其ノ運航ヲ休止シ、

船主ハ直接軍ト契約ヲ締結シ、船員ハ海運管理令ニ依ル徵用ヲ解除セラレテ、船主トノ雇傭契約ヲ復活シ軍屬トシテ軍ノ指揮命令ニ從フモノナリ。

此ノ間、船舶取扱及ビ船員ニ關シ煩雜ナル事務手續ヲ要スレドモ、戰時下事務簡捷及ビ防護上ノ見地ヨリ之ヲ一本建トナシ船舶運管會トノ一括契約トスルヲ可トスベシ。

## 第八 海上運送契約様式ノ單一化

今ヤ本邦ニ於ケル海上運送業務ノ主體ハ船舶運管會一個ニシテ同會ガ本邦唯一ノ海上運送業者ナリ。宛モ國鐵ガ運輸規程ヲ制定シ單一ノ運送契約様式ニ依リ凡ユル貨物ノ運送契約ヲ締結シ居ルガ如ク、海運事業ニ於テモ此ノ機會ニ其ノ契約様式ヲ單一統一化シ、以テ契約締結ノ迅速化ヲ圖ルコト肝要ニシテ從來之ガ實現ニ就キテハ船舶運管會ニ於テ銳意考究中ナレ共未ダ其ノ達成ヲ見ルニ到ラズ。此ノ際各方面ノ一層ノ理解ト協力ヲ得テ、平易公正ナル様式ヲ制定シ以テ事務能率昂揚ヲ圖ルコト急務ナリトス。

## 第九 船舶海難防止對策

現下最モ貴重ナル船舶ノ損傷或ハ沈沒等ノ海難ヲ極力防止スベキ必要アルコト敢テ絮説ヲ要セズ。戰時危險ニ因ル損害ヲ極力小ナラシムル爲メ必要ナル各種ノ防止策ヲ一層強化スルト共ニ他方普通海難ノ防止ニ關シテモ萬全ノ施策ヲ實現スルコト必要ナリ。

## 第十 内地海事行政ノ統一

港灣關係行政ノ運営一元化對策トシテ曩ニ其ノ綜合運営ニ關スル應急措置ヲ實施セラレタルモ、更ニ進ンデ内地海事行政權限ノ一元化ヲ圖ルガ如キ根本對策ヲ講ジ、内地海事行政ノ綜合運営ヲ期スベキナリ。即チ朝鮮置籍船、臺灣置籍船及ビ關東州置籍船ノ政府使用ハ夫々朝鮮總督、臺灣總督及ビ滿洲駐劄大使ノ權限ニ屬シ、從ツテ機構及ビ手續ノ重複ヲ來スノ止ムナキ現狀ニ在リ。内地權限ノ統一ヲ斷行シ戰時海事行政ノ綜合ヲ圖リ事務處理ノ能率化ヲ期スベキナリ。

## 二、戰時港灣機能增強ニ關スル事項

當會ハ曩ニ港灣ニ關シ意見書ヲ發表スル所アリタリ(註)。然ルニ其ノ後戰局ハ急激ニ進展シテ深刻苛烈ナル様相ヲ呈シ、今ヤ輸送問題ノ解決ガ我が國戰時經濟ノ根幹ヲナスノ秋、港灣ニ於ケル運營能率ヲ最高度ニ發揮シ一ハ本船ノ速發ヲ圖リ他ハ港灣運送ノ敏速ヲ期シ以テ時局ノ要請ニ應フルコトヲ要ス。仍テ左ノ施策ヲ強力且急速ニ講ズベキモノトス。

(註) 昭和十六年十二月「本邦海運重要對策ニ關スル意見」中「第三、港灣運営」

### 第一 港灣ノ運営及ビ其ノ管理行政ノ統一

港灣運營能率ノ增強ト港灣行政ノ一元化ハ全ク密接不可分ノ關係ニアリ。如何ニ部分的ニ效率ヲ發揮スルモ港灣運營ニ關シ各關係官廳ノ權限及ビ監督ガ相錯綜スルニ於テハ決戰下港灣ノ綜合的運營ニ支障ヲ來タシ、荷役力ノ強化ヲ期スルコトヲ得ズ。而シテ港灣荷役力增強ノ直接主管官廳ハ遞信省(海務院)ナルモ、荷役增強ニ必要ナル港灣修築ハ内務省、勞務關係ハ厚生省、關稅關係ハ大藏省、海陸連絡ハ鐵道省、倉庫、物資關係ハ商工省等夫々所管ヲ異ニシテ港灣行政ノ一元的統一ヲ缺ク實狀ナリ。

然ルニ政府ハ三月十一日閣議決定ニ基キ、重要港灣ニ於テ當該地方長官ヲシテ港灣運營力ノ強化、綜合的調整ニ當ラシムルコトヲナリタルモ、更ニ強力ナル港灣行政ノ綜合的實施ノ爲メ、主要港灣ニ港運

應ノ如キ行政機構ヲ設ケ行政ノ一元化ヲ圖ルヲ急務トス。

## 第二 勞務對策

### (イ) 勞務確保對策

(一) 艇船員、曳船乗組員ノ如キ小型船舶乗組員ニ對シテハ、既ニ總動員審議會ニ於テ船員能力申告令ヲ改正シ船員徵用令ヲ適用シテ之ガ確保ヲ圖ルコトニ決定ヲ見タレ共、更ニ港灣荷役増強ニハ船内沿岸兩勞務員ノ確保ヲ強化スル必要アルガ故ニ、此等勞務員ニ對シテモ優先的ニ配置充足ノ途ヲ講ズルコト

(二) 内地及ビ外地ノ過剩勞働力ヲ集團的ニ移入シテ港灣勞務員ノ充足強化ヲ圖ルコト

(三) 船舶修理工員ノ確保養成ヲ圖ルコト

### (ロ) 港灣勞務員ノ一元的統制

港灣、倉庫、沿岸、工場、其ノ他港灣荷役力増強ニ直接關係アル勞務員ノ一元的統制方式ヲ速カニ確立シ、重點的配置ヲ可能ナラシムルコト

### (ハ) 勞働能率向上對策

(一) 固定給制ニ出來高拂ヲ加味セル弾力性アル支拂賃銀制ヲ確立シテ生活ノ安定ト能率ノ増進ヲ圖ルコト

(二) 福利厚生施設ノ急速擴充ヲ圖ルコト

(1) 港灣關係業者ノ勞務管理ヲ強化セシムルト共ニ荷役改善協會ノ如キ制度ヲ擴充スルコト

(2) 港灣勞務者ニ對シテハ作業ノ特異性ニ鑑ミ、超重點産業ノ勞務員ニ準ジテ作業用品(作業服、軍手、地下足袋、石鹼、手拭、手鉤等)食糧嗜好品(米、酒、煙草等)ノ特配ヲ講ズルコト

## 第三 港灣施設對策

(イ) 港灣ノ修築(防波堤、浮標、岸壁、棧橋等ノ修築港灣ノ浚渫)沿岸施設(上屋、倉庫、物揚場、雨天荷役場、荷役機械等)給水設備等ヲ整備急施スルコト

### (ロ) 資材ノ配給確保

(一) 輸送系統ノ變化ニ即應スル爲メ資材ノ優先的配給ヲナシテ適切ナル港灣施設ヲ講ズルコト

(二) 艇船、曳船ノ船腹維持ヲ圖ル爲メ港運會社直營ノ艇船、曳船修繕工場ヲ擴張、新設セシメ、計畫造船資材ト調和ヲ保チツ、資材ノ優先的配給ヲナスコト

(三) 曳船用燃料、荷役用具及ビ船用品配給ニ關シ特別ノ措置ヲ講ズルコト

## 第四 港灣運營能率増進對策

港灣運營ニ直接關聯アル諸經營體(船内荷役、艇船、曳船運搬、沿岸荷役、上屋、倉庫、鐵道、トラック)其ノ他ノ關聯企業)ハ港灣能率ヲ最高度ニ發揮スル爲、一元的經營體(例ハ巴營團)ニ統合スルコト、但シ決戰ノ現段階ニ於テハ港灣運營ヲ現狀ノマ、寸時モ之ヲ放置スルヲ許サズ、然ルニ企業ノ統

合ニハ相當ノ時日ヲ要スルヲ以テ、暫定の措置トシテ至急左ノ施策ヲ講ズルコト

- (イ) 臨港地帯ニ於ケル官公私設上屋、倉庫、貯炭場、鋼材場等ノ物揚場施設ハ、舉ゲテ此ヲ總動員シテ重點的ニ港灣運管能率增強ノ目的ニ力ヲ集中シ得ル制度ヲ確立スルコト
- (ロ) 港内ノ運航ニ從事スル船舶（舢舨、曳船、通船、發動機船即チ所謂獨航舢舨ヲ含ム）ハ悉ク之ヲ港運會社ノ統制下ニ置キ、港内運管ヲ一元化スルコト
- (ハ) 港灣運送ニ附隨セル關係事業ハ速カニ之ヲ統合シ、特ニ檢數員ノ如キヲ一元的ニ運管セシムルコト
- (ニ) 計畫荷役ヲ完遂シ海上輸送力ノ增強ヲ圖ル爲メ總揚制ヲ速カニ實施スルコト

### 三、戰時船員對策ニ關スル事項

海上輸送力ノ消長ハ我方國威隆替ノ岐ルル所ニシテ時ノ平戰ヲ問ハズ恒ニ其ノ增強ニ努メザルベカラズ。特ニ現下聖戰遂行ノ途上ニアリテハ國ノ總力ヲ舉ゲテ之ガ實現ニ邁進スベキコト謂フヲ俟タズ。就中、其ノ人的要素タル船員ニ對スル諸施策ノ確立ハ戰時ニ於テハ寧ろ船舶以上ニ一刻モ忽セニスベカラザルヲ以テ宜シク左記ノ諸方策ノ樹立並ニ之ガ急速ナル實施ヲ期スベキモノナリトス。

#### 第一 指導精神ノ確立

戰時海上輸送力ノ維持昂揚ヲ圖ル爲メニハ船員ヲシテ其ノ職責ノ重大ナルヲ自覺セシメ、旺盛ナル敢闘精神ト愛國ノ至情ヲ發揮シ以テ其ノ國家的使命ノ達成ニ勇往邁進セシムベク、國家的統制指導ニ遺憾ナキヲ期スベキコト最モ緊要ナリ。

- (一) 船内ニ於ケル秩序ニ就キテハ如何ナル場合ト雖モ船長ヲ首班トスル命令系統ヲ確立シ、船員及ビ其ノ他乗組員ヲシテ軍隊ト同様ノ規律及ビ秩序ヲ徹底セシムルガ如ク措置スルコト
- (二) 船員ニ對シテ賞罰ヲ明カニスルコト

#### 第二 船員待遇問題

- (一) 船員ハ海陸作戦遂行上、或ハ一般重要物資輸送上、恒ニ彈雨ヲ冒シ風濤ト闘ヒ寒暑ニ抗シテ一刻ノ



安キヲ得ザル點ニ於テ前線將兵ト何等異ナル所ナキノミナラズ、其ノ勞苦ノ連續不斷ナル點ハ之ニ倍スルモノアリトサヘ考ヘラル。從ツテ其ノ國家的使命、職責ニ對シ十分敬愛ノ念ヲ以テ接シ、假リニモ經濟觀念ノミヲ以テ律スルガ如キコトナキヲ期スルト共ニ待遇給與ニ就キテモ各社間ノ差等ヲ廢シ

軍用船タルト否トヲ問ハズ之ヲ一元化シ他方國家的補償制度ヲ強化シ以テ其ノ英氣ヲ益々振起スル策ヲ講ズルコト、尙公定備船料ノ算定ニ當リテハ船員ニ對シ優遇シ得ルヤウ處置スルコト

(二) 船員ノ特殊性及ビ其ノ勤勞狀態ニ鑑ミ、其老後ノ生活安定ヲ期スル爲メ船員保險法ノ擴充及ビ國家的年金制度ノ確立ヲ圖ルコト

(三) 永年海上勤務ニ従事セル乘組員ニ對シテ國家的榮譽表彰ノ途ヲ拓クコト

### 第三 船員確保問題

戰時標準船ノ建造促進ニ伴ヒ所要船員ヲ如何ニシテ確保スベキカハ喫緊ノ問題ナリ。加之、最近木造船大量建造ガ進捗スルニ伴ヒ之ニ必要ナル船員ノ充足ヲモ考慮セザルベカラズ。高級及ビ普通海員ノ大量短期養成ハ一層緊切ニ要望セララルニ至リタリ。仍テ船員充足ニ當リテハ必要人員ヲ確保スル爲一層強力ナル措置ヲ講ジ且ツ政府自ラ之ガ養成ヲ擔當スルヲ本旨トスベキモノナリト思料ス。

#### (一) 船員確保對策

(イ) 高級船員拂底ノ現狀ニ鑑ミ其ノ緊急養成ヲ促進シ、之ガ配分ニ就キテ陸、海、遞、鐵、農五省ノ保有船員ニ對シテ統制的措置ヲ講ズルコト

(ロ) 現行船員職業紹介所ト國民職業指導所トヲ統合シ、其ノ機能ヲ刷新シテ陸海勞務動員計畫及ビ其ノ實施ヲ一元化スルコト

(ハ) 普通船員ノ確保ニ當リテハ各府縣ニ一定數ノ供出人員ヲ割當テ其ノ人員ヲ必ズ供出セシムルコト  
國民學校新規卒業者ニ對シテハ特ニ然リトナスコト

(ニ) 普通船員ノ一部ニ共榮團住民ヲ活用スル措置ヲ講ズルコト

(ホ) 戰時下ニ於ケル船員ノ任務ハ軍人ト何等異ナル所ナキヲ以テ熟練船員ノ補充極メテ困難ナル現在

ニ於テハ一般船員中ノ豫備陸海軍人ニ對シ應召ヲ免除シ、且ツ徵兵適齡者ニテ一定年數ノ海上實歴ヲ有スル者ハ之ヲ軍用船員タル臨時措置ヲ講ズルコト

(ヘ) 海上ニ於ケル知識經驗ヲ陸上海運企業ニ活用スルハ海運經營上最モ必要ナルヲ以テ、船員ヲシテ陸上海運關係ノ諸機構ニ參劃セシムルコト

#### (二) 船員養成對策

(イ) 船員養成ハ政府自ラ其ノ衝ニ當リ精神教育ニ重點ヲ置クコト

(ロ) 船員ノ養成ハ學校教育ト共ニ船内ノ實踐過程ニ於ケル鍊成訓育ニ其ノ效果ヲ認メ得ベク、之ガ指導ハ高級船員ヲシテ擔當セシムベキモノナリト思料ス、仍テ高級船員ノ養成ニ當リテハ航海、機關ノ學術ノミナラズ部下ノ教育訓練方法ヲモ教授スルコト

(ハ) 海技免狀ノ整理單純化ヲ更ニ強化スルコト

(ニ) 現行試驗制度ノ試驗本位ヲ廢シ實務ヲ尊重シ實歴本位ニ改ムルコト

(ホ) 特別高等船員養成所並ニ大阪高等船員養成所ヲ戰時中一時閉鎖シ、之ガ代策トシテ一定ノ實歴及ビ技術ヲ有スル船員ニ對シ政府ハ認定ニ依リ高級船員ノ資格ヲ與フルコト、尙右ニケ所ノ施設ヲ短期高等船員養成所ノ擴張ニ當ツルコト

#### 第四 福利厚生問題

船員ノ職場及ビ生活環境ノ特殊性ニ鑑ミ、勤務上福利厚生施設ヲ必要トスルハ陸上勞務者ノ比ニ非ズ且ツ我が國ニ於ケル現在ノ同種施設ノ貧弱ナルハ海洋國家ノ立場ヨリ甚ダ遺憾ナリトス。其ノ方法多々アリト雖モ特ニ緊急ヲ要スルモノハ

(一) 一定ノ任務ヲ終リタル後ハ努メテ心身ノ休養ヲ圖リ以テ次ノ活動ニ遺憾ナカラシムルト同時ニ海難防止ノ爲ニモ船内居室ヲ改善シ通風、換氣其ノ他衛生施設ノ充實ヲ圖ルコト、特ニ戰時標準型ニ於テ然リトナスコト

(二) 殉難殉職者ノ遺家族及ビ傷痍船員ノ生活保證並ニ海上勤務ニ依リ不在中ノ家族慰安ノ爲メ官民合同ノ援護機關ヲ一層強力ナラシムルコト

(三) 船員ヲシテ船舶入港ノ際家族ト團欒シ、乗船、轉船ノ際ノ經費ノ節減ヲ圖リ、且ツ惡習慣ニ染マザルヤウ規律アル生活ヲ過サシムル爲メ内外地船員會館ヲ設置スルコト、尙船員會館ニハ健全ナル娛樂施設ト宿泊施設ヲ設クルコト

(四) 呼吸器病並ニ船員特有ノ各種風土病根絶策トシテ特設研究機關兼療養所ノ設置ヲ促進スルコト

### 四、船舶生産増強ニ關スル事項

現下最大重要國策ノ一ナル船舶生産増強ニ關シテハ、現有設備ノ徹底的活用及ビ今後急速ニ新設擴充セラルベキ設備ノ全幅的機能發揮ヲ目標トシ、之ガ實現ノ爲メ必要ナル勞務、資材其ノ他ノ點ニ關スル諸般ノ障害ヲ究明打破シ、以テ船舶ノ生産増強ニ一路邁進スベキモノト思料ス。

尙船舶ノ生産増強ト不可分ナルハ、船舶ノ修繕問題ニシテ本意見ニ於テハ右問題ニ就キテモ併セテ考慮シテ意見ヲ述ブルコトトセリ。

刻下決戰ノ途上、此ノ大戰爭ヲ勝ち抜ク爲ニ端的ニ必要ナル當面ノ對策ニ總力ヲ集中スベキハ勿論ナルモ右應急對策ノ遂行ト共ニ船舶生産増強上ノ根本對策ニ就キテモ之ヲ併セテ考慮スルコトトセリ。

#### 第一 船腹擴充根本對策

船腹擴充ノ應急的措置タル戰時標準型船ノ大量且急速ナル建造ヲ更ニ一層強化スルコトハ戰力增強上喫緊ノ要事ナルコト勿論ナルモ、決戰下不可缺ノ重大問題トシテ吾人ノ痛感スルハ、現段階ニ即應セル本質的ナル船腹擴充方策ノ更新確立ニアリ。而シテ右方策ニ於テハ、軍事目的ノ達成ト一般輸送ノ完遂トヲ併セ考慮シタル綜合的計畫ノ樹立ヲ根幹トシ、且燃料問題ニ付十分ナル考慮ヲ拂ヒ、各般ノ觀點ヨリ船種、船型、機關等(船體、機關ノ構造及ビ材質ヲモ含ム)ノ選定ニ再檢討ヲ加ヘテ之ヲ確立シ現行

戰時標準型船ノ急速建造ト併行シ、速力及ビ能率ニ於テ更ニ前進シタル船舶ヲ建造スルコト肝要ナリト  
思料ス。

## 第一 船舶ノ新造修繕能力對策

- (一) 船舶ノ新造修繕能力増強ノ爲メ、既設工場ノ既定擴充計畫ヲ一日モ早く完成スルト共ニ新設中ノ造船機工場等ノ設備モ亦一日モ早く其ノ機能ヲ發揮スル様措置スルコト
- (二) 船舶自體ノ新造修繕能力増大スルニ從ヒ、補機、部品、織裝品船用金物等ノ生産供給能力著シク不足スル實情ニアルニ鑑ミ、速ニ之ガ能力ノ擴充ヲ期スルト共ニ資材等ノ重點的配給ヲ期スル様特別ノ措置ヲ講ズルコト
- (三) 造船設備ノ新設擴充ニ就キテハ、我が國國土計畫ヲ併セ考慮シテ後世ニ殘サザルヲ期スルト共ニ、大東亞共榮圈ヲ一環トシテ考慮シタル新設擴充計畫ヲ樹立シ指導方針ヲ確立スルコト

## 第三 勞務對策

- (一) 一般工員及ビ徵用工員ニ對スル理解アル取扱、賃金及ビ補給金制度、衣料、食料及ビ住宅設備其ノ他根本的諸問題ノ解決ニ一層努力シ、以テ勞務者ノ大量増員ヲ可能ナラシムルト共ニ工員ノ出勤率向上ヲ圖ルコト
- (二) 技術者及ビ技能工養成施設ノ擴充ヲ圖リ、以テ技術者及ビ技能工ノ増加ヲ圖ルコト、尙之ガ爲ニハ

特ニ技術檢定ノ公的制度ヲ擴充整備シ、工員ヨリ技術者ニ進ミ得ルコトヲ容易ナラシメ、以テ工員ノ向上心ノ發揚ニ依リ技術ノ向上ヲ期スルコト

- (三) 工員ノ指導、訓練、再教育等ノ徹底ニ依リ、現有勞務ノ素質向上ヲ期スルコト
- (四) 船舶設計上ノ改良、工作方法ノ工夫改善、工事ノ簡易化等ニ依リ所要工數ノ節減ヲ圖リ以テ現有勞務ノ有效利用ヲ期スルコト
- (五) 技術者、工員ノ創意工夫ヲ獎勵シ以テ作業能率ノ増進ヲ期スル爲メ、之ニ對スル現行表彰制度ノ擴充ヲ圖ルコト
- (六) 勞務管理ニハ生産技術ニ精通セル工場技術者ヲモ之ニ參加セシメ、以テ勞務管理ノ徹底強化ヲ圖ルコト
- (七) 徵用工員ニ就テハ、徵用期間滿了ノ上ハ極力之ヲ現工場ニ備入ルルカ、若クハ徵用期間延長或ハ再徵用ヲ爲シ、以テ之ヲ現工場ニ保持スルノ措置ヲ執ルコト
- (八) 社外工ハ必要ノ限度ニ於テ之ヲ保持スルニ止メ、造船勞務ノ主力ヲ社外工ニ依存スルガ如キハ極力之ヲ避クルト共ニ、社外工ノ協力組織ニ就テハ深甚ノ考慮ヲ拂フコト

## 第四 資材對策

- (一) 各造船所内部ニ於ケル資材等ノ管理ノ機構ヲ整備シ、其ノ強化徹底ヲ期スルコト
- (二) 造船所等ノ相互間ニ於ケル資材等ノ融通ニ就キテハ、最近組織セラレタル造船用資材活用協力會ノ

- 如キ機構ヲ一層整備シ以テ資材等ノ偏在ヲ絶エズ是正スルト共ニ、其ノ活用ヲ一層強化徹底スルコト
- (三) 資材等ノ購入、輸送、保管等ヲ共同一括的ニ行ヒ、以テ其ノ入手及ビ融通ヲ容易ナラシムルコト
  - (四) 資材等ノ統制配給ニ關スル現行機構ハ、惶惶ノ際逐次設定セラレタルモノニシテ、漸次改善ノ歩ヲ辿リツツアリト雖モ、尙複雑繁多ナル點點ナカラザルヲ以テ、之ガ改善及ビ簡素化ヲ圖ルコト
  - (五) 補助資材ノ入手特ニ困難ナル實情ニ鑑ミ、出來得ル限り之ヲ中央統制ニ移スト同時ニ、地方廳ノ配給機構ヲ整備シ之ト密接ナル連繫ノ下ニ適正配給ノ徹底ヲ期スルコト
  - (六) 資材等ニ付キ規格ノ融通性ヲ保タシメ、且製作容易ナル規格ヲ採用スルニ努ムルト共ニ、生産供給部門ニ於テハ規格製品ノ品質ニ付キ責任ヲ負フ様ニシ、以テ使用者側ヲシテ不安ナカラシムルコト
  - (七) 部品等製造工業ノ生産能力ノ擴充ヲ圖ルト共ニ、一工場ヲシテ一種若シクハ僅少種ノモノヲ多量生産セシムルガ如ク措置セルコト
  - (八) 船體、機關、補機、艤裝等ノ設計ノ改善ニ依リ、極力所要資材ノ節減ヲ圖ルコト
  - (九) 電氣熔接ノ使用範圍ノ擴大及ビ熔接方法ノ改善ニ努メ、以テ資材ノ節約及ビ工事ノ迅速化ヲ期スルコト
  - (十) 右ニ關シテハ電氣熔接用機械器具及ビ熔接棒ノ生産増強ヲ爲スノ要アルコト
  - (十一) 酸素アセチリン瓦斯切斷ノ使用範圍ノ擴大及ビ切斷方法ノ改善ニ努メ、以テ資材ノ節約及ビ工事ノ迅速化ヲ期スルコト
  - (十二) 右ニ關シテハ酸素瓦斯及ビカーバイドノ生産増強ヲ爲スノ要アルコト

### 第五 船舶修繕對策

- (一) 代用品ノ使用ヲ一層促進スルコト
- (二) 親工場ト協力工場及ビ下請工場トノ間ニ生産資材ノミナラズ副資材ノ流通ヲモ可能ナラシムルガ如ク法規上ノ障碍除去、其ノ他必要ナル措置ヲ講ズルコト
- (三) 遊休資材ノ供出ニ障碍トナレル諸般ノ事項ヲ除去シ、供出ヲ促進スルノ措置ヲ執ルコト
- (一) 輸送力擴充方策トシテ、現存船ノ修繕保持ヲ第一義トスル從來ノ方針ハ之ヲ堅持スルコト
- (二) 船舶修繕ノ目標ハ航海ノ安全ヲ確保シ、荷役ニ支障ナキヲ期スルヲ以テ限度トシ、工事範圍ノ縮小及ビ修繕日數ノ短縮ヲ圖ルコト
- (三) 船舶修繕能力ノ積極的增加ヲ圖ル爲メ、船渠、繫船岸壁及ビ附帶施設ノ新設及ビ増設ヲ爲スコト
- (四) 船舶ノ新造ト修繕トノ調節ヲ圖リ、出來得ル限り修繕ヲ計畫的ナラシメ、以テ船腹ノ有効利用ト修繕能力ノ全面的活用トヲ期スルコト
- (五) 船舶修繕ニ必要ナル勞力ノ確保及ビ資材ノ優先配給ヲ實現スルコト
- (六) 船舶修繕能力擴充方策ノ一トシテ、沖修理業者、修繕下請業者等ノ組織的活用ヲ強化スルコト
- (七) 修繕費ノ昂騰ハ修繕能力ノ不足及ビ資材ノ入手不圓滑ニ歸因スルトコロ尠カラザルヲ以テ特ニ右ノ點ニ留意シテ修繕費ノ抑制策ヲ講ズルコト

(備考)



木造船ニ關スル事項ハ別途考究中ニ付本資料ニハ之ヲ含マズ。

以

上

終